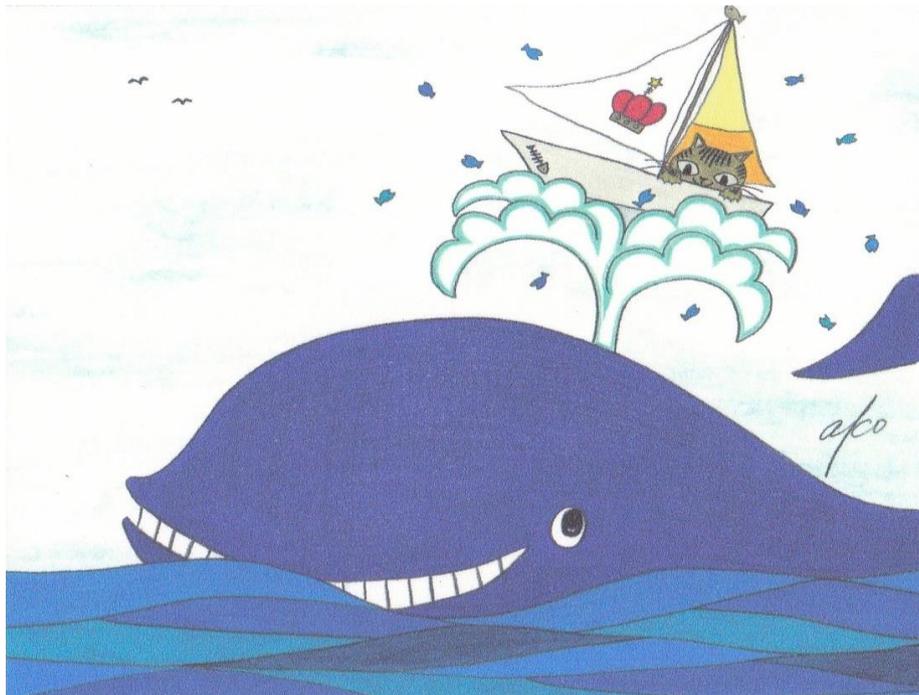


足利風 -ashikaga-fu

2016
8月号
Vol. 45



絵：あべ あやこ

足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

「アンジュール～ある犬の物語」

いま、1986年に出版された一冊の絵本「アンジュール～ある犬の物語」を読み返している。ベルギー生まれの女流絵本作家ガブリエル・バンサンの鉛筆デッサンだけの言葉の無い絵本。フランス語で“ある一日”を意味する「アンジュール」。捨てられた一匹の犬の一日の彷徨が描かれている、やがて一人ぼっちの少年と出逢う・・・という物語。静謐な感動とでもいうものが心の奥底から滲み出てきたことを思い起こしている。



今日この頃、「ビジネス書より絵本を読もう！」とか「絵本には大人だからこそ読み取れるメッセージが隠されている！」とかいうことで、大人たちへの絵本のススメや絵本セラピーという現象が起こっている。現代の生活に疲れた大人のための絵本カフェなどが盛況だという。社会のストレスが大きくなるほど大人が絵本を読むようになるという。

絵本について話す時には、素直に自分の心を開いて話すことができる。大人がありのままの自分を出せる場はあまり無い。ありのままの自分を表現できる場で、大人は癒される、のだという。だから大人こそ絵本を読もう！と、いうことになる。

絵本「アンジュール～ある犬の物語」を出版された直後に読んだ。それから間もなく、知り合いの獣医師のところ遊びに行った際に、たまたま犬のペット屋さんから、やせ衰えたダルメシアンの子犬が担ぎ込まれていた。目と目が合ってしまった。引き取って飼うことになった。それが、初代の“メラニー”との出逢いだった・・・。しみじみと、縁とは不思議なものだと、今さらながらに思う。一冊の絵本との巡り合いが、その後の人生に、多彩なグラデーションを演出してくれることもある・・・という一例だ。

(M 生)

「志野の会」朗読会

4月30日(土)午後、足利市民活動センター3F みんなの広場・日下部悲天「石と竹で、句をしつらえる展」会場で、「志野の会」朗読会が行われた。30名ほどの参加者は、朗読の質の高さや音響効果・演出などに感嘆しきりだった。* 悲天句集 * 小さな物語(作・壺井 栄) * ふうたの雪まつり(作・あまんきみこ) * とんかつ(作・三浦哲郎) * 中原中也詩集“汚れっちまった悲しみに”より・・・を、6人の朗読で聴かせた。企画展とのコラボという意味でも面白い朗読会だった。終演後も、「ぜひ再演を！」との声も多く聞かれた。

* 足利弁 ア・ラ・カルト *

～渡辺 啓子～

4月27日、足利市民活動センターで「楽しい足利弁教室」を開催しました。去年の9&10月号をもって、31年間の歴史にピリオドを打った「足利漫我人」の終刊号の特集「足利弁だがね。」をテキストにしたの講座でした。集まってくれた皆さんと、足利弁についてのいろいろなお話も出来て、とても楽しい時間でした。



思い起こせば、最初に「足利弁」の特集を掲載したのは、創刊から一年半、1986年の新年号でした。足マガ始まって以来の(そして、結局最後の・・・笑)学術的特集と、巷(チマタ)で大評判!。30年経った今でも、語り継がれている程です。ホームページまで作られました。それからさらに9年後、1995年の新年号で再び掲載されたのです。そして、終刊号にふさわしい特集を・・・ということで、20年ぶりに掲載され、また新たな評判を得ることが出来ました。

そもそも「足利弁」は、“栃木の方言”と“群馬の方言(上州弁)”の両方の影響を受けている独自の方言なので、「足利弁」に関する参考資料がほとんど無く、その両方の資料を私なりにピックアップして、今回の原稿を作り上げたのです。県立図書館に丸2日間通い詰めて資料を集めた、まさに大仕事でした。でも、おかげで納得のいくものが出来上がったので、やはり、「足利漫我人」31年の歴史の中でも、一番の企画と言えるでしょう。私にとっても、とても思い出深いものとなりました。

読んでないけど読んでみた～い! という方がいらっしやいましたら、足利市民活動センターまで。まだ多少の在庫がございます。あっ・・・それから、11月22日に「楽しい足利弁教室」の第2回が開催されるそうなので、ご興味のある方は、ぜひ、遊びに来てください。お待ちしております。

* ギタークラブ青春恋歌の紹介 *

平成26年8月～11月の市民大学あしかが学校認定講座音楽教室(フォークギター10回)修了後、「ギタークラブ青春恋歌」として発足。殿岡隆講師のご指導を受け現在クラブ員は12名で毎月2回、月曜日の午後7時より9時まで山辺公民館において「楽しくギターを弾くこと」をモットーに練習を行っております。なおクラブ名の青春恋歌とは講師の殿岡隆様の数ある作詞・作曲された曲の中の「青春は恋と歌の旅」という素敵な曲の題名より青春恋歌というクラブ名を古田千秋会長が名付けました。

① インフォメーション ①

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★8月20日(土) PM1:30～3:30

- * 本 : 絵本「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」(汐文社)
- * 案内人: 小林夏実さん・篠崎健太郎さん
- * ひとつこと : “南米ウルグアイのムヒカ大統領(2010～2015)は、給料の大半を貧しい人たちに寄付し、自分は農場で質素に暮らし、国民から愛されました。心よりモノを大事にする現代文明に警告する発言でも知られ、国際会議でも、私たち自身の生き方を見直さなければならぬと呼びかけた演説は大きな反響を与えました。今回私たちはこの絵本から多くのことを学びたいと思います。”

★9月10日(土) AM10:00～12:00

- * 本 : 司馬遼太郎「街道をゆく～関東編」
- * 案内人: 田中昇平さん
- * ひとつこと : “「街道をゆく」は、1971年から司馬さんが亡くなった1996年まで25年間続きました。司馬さんが辿った街道は北海道から沖縄、そして海外まで及んでいます。日本民族と文化の源流を探り、風土と人々の暮らしの関わりを訪ねる旅です。司馬さんが見つけようとした日本の原点を、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。”

■会場: 足利市民活動センター

■参加費: 無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

* センターからのご案内 *

☆みんなの広場 ～ 8月・9月のご案内 ～

- * 色紙と硯 展 (7月25日～8月4日)
- * 石造り狛犬とあそぶ 展 (8月8日～8月25日)
- * 能・狂言の面 展 (8月29日～9月8日)
- * 土と布・炎と織・器と衣 展 (9月12日～9月21日)

☆相談室&講座のご案内

- * 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照
- * 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

Facebook の
QR コード



編集後記

当センター3階の南面いっぱいに出たゴーヤの緑のカーテン。目に優しい緑と葉の隙間から爽やかな風が通り抜け、蒸散作用で室内温度を約3℃下げてくれる。訪れる人への癒し効果は抜群！今年の猛暑も乗り切れそう！！(すずらん)